

坐忘齋宗匠 第16代御家元継承記念

「全国16ブロック・リレー茶会」 新聞報道記事

北陸信越ブロック



心静かに一服味わう

富山 淡交会がリレー茶会

家元自作の茶杓などを用いて開かれた
リレー茶会—富山市の佐藤記念美術館

茶道裏千家淡交会青年部
部の全国リレー茶会は二
十日、富山市の佐藤記念
美術館で開かれ、約三百
人が心静かに一服をたん
のうした。

リレー茶会は、九月五日から三日間、京都市で開かれる淡交会青年部第十三回全国大会を前に会員の士気高揚を図り、今年一月に坐忘斎が第十六代家元を継承したことを祝う意味も込めて行われている。七月五日から二カ月間、南と北の二ルートに分かれて全国約百二十カ所を巡回して行われる。

富山を含む北コースは「四海浪平竜眼穂」と書

かれた家元の掛物、家元自作の茶杓、千玄室大匠の茶わんの三点がパト
ンに見立てて貸し出され、連日各地で開かれて
いる茶会の会場に用いら
れている。二十一日は高
岡市のイオン高岡で同様
のリレー茶会が開かれ
る。

富山新聞 8月21日

リレー茶会で
安らぎの一服

高岡

九月五―七日に京都で行われる茶道裏千家淡交会の「第十三回青年部全

国大会」に向け、家元が命名した茶約などをバトン代わりに全国各地に「リレー茶会」は二

十一日、高岡市下伏間江のイオン高岡ショッピングセンター（SC）で開

かれ、高岡支部の青年部が市民や愛好者に安らぎの一服を振る舞った。

高岡支部の青年部では、愛好者のほか、多くの市民にお茶を楽しんでもらう目的で、来客数が

多い同SCで行った。茶席では、青年部に加え、同会学校茶道連絡協議会に所属する児童らが運び役として活躍し、来場者を喜ばせた。

富山新聞 8月22日

家元継承記念し
高岡でリレー茶会

裏千家淡交会青年部

茶道の裏千家淡交会青年部のリレー茶会が二十一日、高岡市のイオン高岡ショッピングセンターで開かれた。会場をリレー形式で継断している茶会。この日は、同会高岡支部の青年部が、大勢の来場者をもてなした。

ことし、千家家元が十六代目を継承したことを記念して行っている。



おいしいそ
うに一服
を味わう
人たち」
高岡市の
イオン高
岡ショッ
ピングセ
ンター

断、各支
部の青年
部が、パ
トンに見
立てた軸

北海道をスタートし、二と茶わん、茶約をリレー
つのルートで国内を縦しながら毎日茶会を開い

ている。約一カ月間を
け、九月五日に京都市で
開かれる「青年部全国大
会」でのゴールを目指す。

高岡市では、同会高岡
支部のいみず野、志賀野、
となみ野の三青年部が主
催し、お点前を披露した。
ベニサウキョウやイト
ススキをあしらった、夏の
終わりを演出。涼しげな
雰囲気の中、訪れた人た
ちがおいしそうに一服を
味わった。

北日本新聞 8月22日

坐忘斎千家家元ゆかりの茶道具を用いて行われた
リレー茶会 —金沢市文化ホールの「閑清庵」



家元継承祝いリレー茶会

裏千家淡交 会青年部 精進誓いもてなし

茶道具裏千家の十六代坐忘斎千家氏の家元継承を記念したリレー茶会（北國新聞社後援）は十二日、金沢市文化ホールの茶室「閑清庵」で開かれた。九月五日から京都で始まる淡交会青年部第十三回全国大会に向けたイベントで、同市支部青年部の会員が一層の精進を誓った。

リレー茶会には家元直筆

衛門氏の茶碗、銘「翔」

が用いられた。大島宗泰淡交会石川支部幹事長、大橋年雄北陸信越ブロック長が見守る中、高岡支部から回ってきた茶道具が石川支部に引き渡され、同支部青年部連秘会の山岸外枝代表らが午前十一時から九時間で約四百五十人をもてなした。石川支部の後は石川南支部に引き継がれ、二十三日には小松市内で茶会がある。

北國新聞 8月23日

茶道具バトンで一席

裏千家 淡交会青年部 全国リレー茶会

茶道具「バトン」を使って開かれたリレー茶会。市文化ホールの茶室「閑清庵」で開かれた。この日は、北陸信越ブロック所属の青年部員四百人以上が続々と集まり、順に茶会に臨んだ。大橋年雄ブロック長からリレー茶会の趣旨などについて話を聞きながら、到着した軸などを鑑賞。和やかなひとときを楽しんでいた。

リレー茶会は、二十三日も県内の別会場で開催、二十四日には福井県に移る。

九月五・七日に国立京都国際会館で開かれる、青年部の第十三回全国大会に向けた行事。千家室家元が作った茶杓（ちゃしゃく）と軸に、千家室大茶匠の茶わんを加えた茶道具三点をバトンに見立て、七月五日から全国各地を巡回して連日開催されてきた。全国大会会場がゴールになる。



「バトン」の茶道具を使って開かれたリレー茶会。市文化ホールの茶室「閑清庵」で

北陸中日新聞 8月23日

ゆかり深い茶室で一服

小松でリレー茶会

茶道具「バトン」を使って開かれたリレー茶会。市文化ホールの茶室「閑清庵」で開かれた。この日は、北陸信越ブロック所属の青年部員四百人以上が続々と集まり、順に茶会に臨んだ。大橋年雄ブロック長からリレー茶会の趣旨などについて話を聞きながら、到着した軸などを鑑賞。和やかなひとときを楽しんでいた。

リレー茶会は、二十三日も県内の別会場で開催、二十四日には福井県に移る。

九月五・七日に国立京都国際会館で開かれる、青年部の第十三回全国大会に向けた行事。千家室家元が作った茶杓（ちゃしゃく）と軸に、千家室大茶匠の茶わんを加えた茶道具三点をバトンに見立て、七月五日から全国各地を巡回して連日開催されてきた。全国大会会場がゴールになる。



「バトン」の茶道具を使って開かれたリレー茶会。市文化ホールの茶室「閑清庵」で

北國新聞 8月24日

300人がお点前堪能

裏千家
淡交会

小松で全国リレー茶会

茶道裏千家淡交会青年部の「全国十六ブロック・リレー茶会」は二十三日、小松市丸の内公園町「茶室」(仙叟(せんそ)日、南北二ルートに分か

れてスタート。九月五日、千玄室大宗匠の茶わに京都市である全国大会の三点セットを引き継ぎ、までの二カ月間、千茶室、きながら、各地で茶会を家元の掛け軸と茶しや開いている。



厳肅な雰囲気の中、お茶を楽しむ市民ら＝小松市で

この日は、淡交会は、石川南支部の加賀、九谷の両青年部が主催。首物寮の会員約三十人は、茶室を訪れた愛好家らを抹茶と和菓子でもてなした。

北陸中日新聞 8月24日